

ケース学習も何度も繰り返してきました。基本のおさらいをしてみましょう。

ホメオパスの役割は、「オルガノン §3」に記してあります。再確認しましょう。

ケース学習での全体の流れは・・・

- ①「Case Taking」--->②「特徴的な症状を捉える」--->③「前分析」--->
④「本分析」--->⑤「統合（病の中心）」--->⑥Rep.--->⑦レメディの決定
・・・という流れになります。

統合では、そのケースを統合した 5～7 個ほどの過剰書きなどにして、そのケースにおける「病の中心」を表現してみましょう。

ケース学習の取り組み方の順序は、以下の通りです。

1. まず、ケースを一読して、ケースから受ける①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。
4. これらを元に、「前分析」を試みる。（正確に分からなくても良いです）
 - ②健康度（0～10）
 - ③予後（良いレメディがある時／ない時）は、どうなるか？
 - ④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、まずはそこから始める）
 - ⑤治癒を妨げているものの有無は？
 - ⑥親和性（部位）
 - ⑦マヤズム傾向（Psora Sycosis Syphilis Cancer TB 等）
 - ⑧全体性（CASE での乱れはどこにあり、レメディはいくつ必要になるか？）
 - ⑨バイタリティー
5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の中心）をとらえる。**統合**
6. 統合「何が癒されるべきか？」から外れない症状を **Rubrics** として選び、レポートライズ（Rep.）する。
7. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。
8. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、ケース学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。

では、始めましょう。